

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 10 日現在

機関番号：12605

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26870634

研究課題名(和文) フィジー、ダワサム地域における神話と環境ディスコースに関する人類学的研究

研究課題名(英文) Anthropological Study of Myth and Environmental Discourse in Dawasamu, Fiji

研究代表者

浅井 優一 (Asai, Yuichi)

東京農工大学・工学(系)研究科(研究院)・講師

研究者番号：80726860

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：フィジー諸島ダワサム地域住民による環境保護の実践と、彼らが日常的に行う土地の神話やキリスト教についての語り、この両ディスコースの関係を談話分析の手法に依拠して考察した。特に、2008年4月に、当該地域のN村落において伝統儀礼用具を焼却したペンテコステ系キリスト教団体の活動内容を調査し、同団体がN村落の滞在中に行った伝統儀礼用具の焼却を通じた「土地浄化儀礼(Healing the Land Process)」が、当該村落の住民が環境運動を実施しようと決意した背景にあったことを明らかにした。以上を通して、人間と人間を超えた存在(自然/環境)との記号論的連続性をパース記号論に依拠して指摘した。

研究成果の概要(英文)：The research examined the relationship of discourses between the environmental conservation practices and narratives on myth and christianity in the Dawasamu district, Fiji Islands. Especially, the research focused on the ritual called "Healing the Land Process", in which a Pentecostal Christian cult group confiscated the Fijian vernacular ritual tools and demolished them. The research revealed that this incident was a part of the reason why people in the district started to implement the environmental conservation. Thus, the research revealed the indexical connection with humans and non-humans through narratives or as discourse.

研究分野：文化人類学

キーワード：環境運動 文化と自然 儀礼 詩的言語 記号論 言語人類学 神話 メラネシア

### 1. 研究開始当初の背景

「環境」を対象とする研究は、生態学、生物学、林学、工学といった自然科学系の学問からのアプローチが主流であった。しかし、とりわけ 2000 年代を境にして、環境社会学や政治的生態学、環境歴史学といった学流に代表されるように、「環境」や「環境運動」を、社会や政治、歴史との関連において理解しようとするアプローチが存在感を増してきた。こうした「環境の社会学化」と呼ぶ現象は、環境や環境運動が、本質的には人間と環境の関係性に纏わる、高度に社会的、政治的、歴史的な現象として諒解する必要性が認識されてきたことを示唆している。このような環境への社会的アプローチは、政府や企業、NGO や地域コミュニティといった社会主体間の力関係を前提とし、環境運動の実施や政策の提言、土地・資源利用に伴って生じる主体間の対立、相互折衝の過程などに焦点を当てた分析が一般的となっている。しかし、政治や政策、消費や権利等の問題に焦点を据えた近年の環境社会学の研究枠組みでは、言語、文化的知識、コスモロジー等、通常、「文化」概念の中核に存在するとされる「意味/象徴」の問題と環境の関係は依然として正面から扱われておらず、「環境」という知識・概念が、言語を介したディスコースとして、いかにして生成・解釈されるのかという問題は等閑視されてきたと言える(e.g. Milton 1996)。

申請者がフィジーを調査地として実施する研究は、「環境」を、人間を取り巻く自然環境として一義的に捉えるのではなく、言語を介した相互行為を基点として、当事者たちによって「解釈」される文化的知識/コスモロジーとして捉えている。そして、環境に関わる「解釈」が生成され、変容するプロセスを、相互行為や言語使用の具体的な有り様に焦点を当てて分析することにより、これまで乖離してきた「生態学的」な環境研究と、「文化的」な環境研究を体系的に接合し、社会から、より文化的・言語的領域、すなわち「意味/象徴」の問題へと環境研究の射程を拡大し、「言語・文化・環境」を包括的に扱う領域横断的な人類学的研究の枠組みを拓こうと企図するものである(e.g. Peet & Watts 1996)。

#### <引用文献>

- Anderson, D. G. & Berglund, E. eds, 2003, *Ethnographies of conservation: Environmentalism and the distribution of privilege*. NY: Berghahn Books.
- Milton, K. 1996, *Environmentalism and cultural theory: Exploring the role of Anthropology in environmental discourse*. London: Routledge.
- Peet, R. & Watts, M. eds. 1996, *Liberation ecologies: Environment, development, social movements*. London: Routledge.

### 2. 研究の目的

2007 年から継続的にフィジーを訪問し、ダワサム地域を対象とした調査を行ってきた。その過程で、地域住民と環境との関係性に関して、幾つかの問題点が見出された。フィジーにある南太平洋大学(Institute of Applied Science; IAS)は、2009 年暮れに、ダワサム地域でワークショップを行い、当該地域での沿岸資源管理活動“FLMMA”の実施が決定した。しかし、ダワサム地域住民が FLMMA の実施に賛成した背景には、2008 年 4 月に当該地域にて、ペンテコステ系キリスト教団の一群が行った、儀礼用具を焼却するという出来事があった。同教団は、住民が保有するフィジー土着の伝統儀礼用具が、土地と「悪魔」(tevoru)を結び付ける物体であると訴えた。そして、3 週間の村落滞在中に、民家から種々の伝統儀礼用具を収奪し、焼き尽くした挙げ句、そこに十字架を立てるという「土地浄化儀礼」(Healing the land process)を実行した。当該村落住民は、この出来事が「土地の伝統を破壊し、神の怒りがあった。土地には悪魔が蔓延り、海の魚が減った。」と認識し、2009 年に大学が勧める FLMMA の当該地域への導入に賛成する根拠とした。

本研究は研究期間内に、こうしたダワサム地域住民による FLMMA (環境保護)の受容が、「資源管理」の実施に留まらず、崩壊する土地の「伝統的秩序」を是正し、土地からの「悪魔払い」を完遂しようと試みた過程であったことを明らかにする。すなわち、地域住民は、1)社会的不安定や災厄の原因を、「伝統の崩壊」や「神の怒り」、「悪魔の存在」として説明し、2)「環境保護」という新秩序の受容が、地域の神話的秩序を復元すること、「伝統」の再生を図る行為であると捉えた。そして、3)「環境保護」を受け入れ、実践することを通して、「神の怒り」や「悪魔」が排除されたと解釈したことを明確にする。以上によって、これまで「資源管理活動」として、社会文化的な文脈とは切り離されて実践されてきたフィジーの環境保護運動と、現代フィジー社会の文化的コスモロジーとの具体的な関連性を解明し、解釈行為を通じた「環境」と「文化」が交差するディスコースの有り様を明らかにするものである。

### 3. 研究の方法

本研究では主に、フィジー諸島、タイレヴ地方/ダワサム地域、並びに、スヴァ市、ナウソリ市において、以下の 2 点に焦点を当てた現地調査を実施する。また、適宜、南太平洋大学パシフィックコレクションや政府機関(「先住民所有地漁場委員会; NLFC」、「フィジー言語文化研究所; FILC」など)にて、関連する文献資料や統計資料の収集を予定している。特に本研究は、個人が実施するミクロレベルのフィールドワークに立脚するため、個別のフィールドを越えた、俯瞰的な

視点を放棄しないように留意する必要がある。そのためにも文献研究をフィールドワークと並行して行った。

1) 「フィジー沿岸資源管理」(FLMMA; Fiji Locally-Managed Marine Area) :

スヴァ市にある南太平洋大学の IAS (University of the South Pacific, Institute of Applied Science) にて、ダワサム地域でワークショップを主催した研究員 (Isoa Koroi Waqa 氏等) へのインタビューや、そこで使用された資料の収集を行い、南太平洋大学側が、「伝統」や「神話」、さらには「悪魔」などの概念をどのように駆使して、FLMMA 実施の利点を地域住民へ説明したかについて分析を行った。また、ダワサム地域住民側がワークショップ後に行った、FLMMA 導入の是非に関する論議において、「伝統」の崩壊や「悪魔」の存在、あるいは、2008 年に起きたペンテコステ系キリスト教団体による伝統儀礼用具焼却事件が、どのように参照されたかについて、当該地域のナタレイラ村での参与観察を通じた古老等へのインタビュー調査によって考察した。

2) キリスト教団体 (Covenant Evangelical Church of Fiji) による伝統儀礼用具焼却 :

2008 年 4 月に、ダワサム地域のナタレイラ村において伝統儀礼用具を焼却した、ペンテコステ系キリスト教団体の組織概要、設立趣旨、活動内容について、同団体の創設者 (Vuniani Nakauyaca 氏) へのインタビュー、同団体に関する資料収集に依拠して調査した。また、同団体がナタレイラ村において、3 週間の滞在中に行った伝統儀礼用具の焼却を通じた「土地浄化儀礼」の一部始終を明瞭にした。さらに、その儀礼のプロセスにおいて、フィジー土着の伝統・神話的世界観とキリスト教的視点が、村落住民へどのように語られ、伝統儀礼用具の焼却が正当化されたのかについて、ナタレイラ村を拠点とした当該地域での参与観察を通して分析した。

4. 研究成果

本研究では、フィジーにおける環境運動の特徴を、提唱者側の視点のみならず、それを実際に実践する地域住民側の視点にも注目し、環境運動が在地で共有されている文化的コスモロジーによって意味付けプロセスを明らかにできた。それによって、環境社会学や環境歴史学、政治生態学に代表される、社会学的問題群との関連から環境を分析する従来の研究枠組みを拡大し、言語、知識、コスモロジーなどの「文化」的問題系を分析の射程に収めた。以上によって、従来は文化的問題系とは切り離されて実践・研究されてきたフィジーの環境運動と、サーリンズ以来、オセアニア文化研究における中心的テーマを成してきた「神話」、「伝統」、「キリスト教」などの人類学的諸議論との関連性を、具体的

に解明できる点に本研究の成果がある。

また、多くのコミュニティにとって、環境運動とは社会文化、歴史といった特定のコンテキストに根ざして実践される活動としての性格を持っている。そのため特定のコミュニティにとって「効果的」で「持続可能」な環境運動を推進するためには、当該コミュニティの社会文化的コスモロジーの中で、いかにして環境運動が実践されるのかを克明に記述・分析することが求められる。本研究は、環境研究と文化研究の両分野を視野に入れることにより、社会や文化を考察の射程に含めない環境研究、そして、「環境」に関わる問題を度外視した社会文化研究、これら双方の欠点を補完することが可能である。それによって、環境運動が持つ社会文化的側面を包括的かつ実証的に明らかにし、より実質的な環境運動の在り方を提示しうることが、本研究の意義として挙げられるだろう。

上述したフィールド調査と文献研究を実施するための具体的手順は、以下の通りである。

1) 平成 26 年度には、IAS が、2009 年にダワサム地域で開いたワークショップの具体的な内容を、IAS 所属の研究員へのインタビュー調査や、使用された資料の収集を通して明確にし、FLMMA の実施、フィジー土着の伝統・神話、キリスト教的世界観の 3 者が、談話を通していかに関連付けられ、フィジーの「正しい伝統」と環境保護の連続性が喚起されたかを明らかにした。

2) 平成 27 年度には、ダワサム地域住民による「環境保護」についての語りと、彼ら彼女らが日常的に営む、神話やキリスト教についての語り、この両者の相関関係について分析を進め、地域住民側が環境保護を受容した際に前提とした文化的コスモロジーについて、ダワサム地域での参与観察によって明らかにした。同時に、国内外での文献研究も並行して行った。また国内外の学会や共同研究会等で研究発表し、調査結果の中間報告を行った。

3) 平成 28 年度は、ナウソリ市郊外に所在するペンテコステ系キリスト教団体の本部において、教団創設者や教団員などへのインタビューを行い、ダワサム地域/ナタレイラ村で行った儀礼用具焼却を伴う「土地浄化儀礼」を、当該村落で実行した根拠とその影響について、教団の思想的背景と合わせて明らかにできた。その上で、最終的な研究成果の報告を準備した。

本研究の成果は、フィジーの南太平洋大学で開催されるセミナーで随時発表し、現地の研究者や当事者からの批判やコメントを受け、研究の方向性を確認・修正する機会を積極的に創った。これに加え、国内での共同研究会や学会で研究発表をし、他の研究者と議論交流を図り、問題意識と議論の鮮明化に努めた。さらに、アメリカ人類学会 (AAA) 日

本文化人類学会、社会言語科学会などの研究大会にて調査結果を報告する。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

- 1) 浅井優一 「モノ、語彙、指標性：南太平洋の災因論的ディスコース」武黒麻紀子(編)『相互行為におけるディスコーダンス：言語人類学から見た不一致・不調和・葛藤』ひつじ書房、pp. 185-214、2018年5月17日。(査読無し)
- 2) 浅井優一 「Mana(交感)、儀礼、魔法のフォーミュラ：現代エコクリティシズムの所在／彼岸」野田研一(編)『<交感>：自然・環境に呼応する心』ミネルヴァ書房、2017年3月31日。(査読無し)
- 3) 浅井優一 「書評 Iconicity: East meets West」『異文化コミュニケーション論集』14号、pp. 112-115、2016年2月29日。(査読無し)
- 4) Yuichi Asai. Environmentalism and its ritualized fakeness: A semiotic analysis of onomatopoeic discourse on nature. RASK: International Journal of Language and Communication, 42, pp. 3-40. June, 2015. (査読有り)
- 5) Yuichi Asai and Osamu Abe. Intercultural learning for sustainability: At the 'nexus' of the environment, communication and socioculture in Fiji. In P. B. Corcoran & B. P. Hollingshead (Eds.), Intergenerational learning and transformative leadership for sustainable futures. pp. 313-320. The Netherlands: Wageningen Academic Publishers. October 15th, 2014. (査読有り)
- 6) 浅井優一 「書評 Living Language: An introduction to linguistic anthropology」『異文化コミュニケーション論集』12号、pp. 184-187、2014年3月28日。(査読有り)
- 7) 浅井優一 「首長制論の歴史化：フィジー語による古文書の分析」『Natural Histories of Discourseを読む：読書会の記録「言語と人間」研究会』3号、pp. 23-40、2014年3月17日。(査読有り)

[学会発表](計 7件)

- 1) Yuichi Asai. The 116th American Anthropological Association Annual Meeting: Anthropology Matters, "Environmentalism and Onomatopoeic Discourse on Nature" in panel Beyond the Human, Beyond the Subfield: Integrating Linguistic and Environmental

Anthropology, 30/11/2017 (Washington DC, USA) (p. 136-137 in the program book).

- 2) 浅井優一 社会言語科学会・第40回研究大会。「儀礼のポエティクス：メラネシア・フィジーにおける儀礼スピーチの言語人類学的考察」口頭発表、2017年9月17日、関西大学(発表要旨集 pp. 217-219)。
- 3) 浅井優一 社会言語科学会・第38回研究大会。「現代フィジーにおける<不一致>を巡るディスコース」(パネル：インターアクションにおける不調和を再考する)口頭発表、2016年9月3日、京都外国語大学(発表要旨集 pp. 217-219)。
- 4) 浅井優一 日本文化人類学会・第50回研究大会「文書の言語人類学：近代フィジーのテキスト化、あるいは「歴史」の所在」(パネル：やりとりの人類学)口頭発表、2016年5月28日、南山大学(発表要旨集 p. 24)。
- 5) Yuichi Asai. The 14th International Pragmatics Conference: Language and adaptability, "The Narratives on Devils: Discordance as Metapragmatic Discourse in Contemporary Fiji." in panel: Discourse and discordance: Linguistic, pragmatic and sociocultural strategies for accordance, 31/07/2015 (University of Antwerp, Antwerp, Belgium).
- 6) 浅井優一 立教・異文化コミュニケーション学会・第11回大会「フィジーにおける神話のスタイルシフトと文化変容」口頭発表、2014年5月31日、立教大学(発表論文集 pp.15-18)。
- 7) Yuichi Asai. IUAES 2014 Inter-congress: The future with/of anthropologies, "Semiotic shift of texts in Fiji." in panel Linguistic anthropology: Contributions to the future, 15/5/2014 (Chiba, Japan) (pp. 15-16 in the book of abstracts).

[図書](計 1件)

- 1) 浅井優一(単著)『儀礼のセミオティクス：フィジー、ダワサム地域における神話／詩的テキストに関する言語人類学的研究』三元社、2017年2月28日、全516ページ、ISBN978-4-88303-423-9。

[その他]

ホームページ等

[http://web.tuat.ac.jp/~mech/research/research\\_math\\_lang2.html#asai\\_lab](http://web.tuat.ac.jp/~mech/research/research_math_lang2.html#asai_lab)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

浅井優一 (ASAI, Yuichi)

東京農工大学・大学院工学研究院・講師

研究者番号：80726860